東京薬科大学新聞
発行所
東京薬科大学新聞会
責任者　松澤　敏広
号外

田部井教授退職

誠に残念なことであるが、今年度で薬学部の田部井教授が退職されることになった。薬学部一年の無機化学の授業を担当する先生の部屋は、教育棟一号館二階の端にある。研究棟から離れているため何となく寂し感じがしたが、中は先生の人柄がにじみ出た暖かい部屋であった。

先生は約四十年間にわたってこの東薬に勤務された。初めは男子部有機化学教室（現在の第一薬化学教室）でヘテロ環化合物関連の研究をされていた。そして十二年前からは、化学教育の課題研究をなさっている。その内容は薬剤師国家試験に合わせた基礎教育の方法開発や、各教育機関や大学に合わせた化学講義の研究などを含むものである。

東薬勤務中の一番の思い出は、学内での爆弾製造騒ぎだそうだ。これは大学がまだ新宿にあったとき、昭和四十四年国際反戦デーの頃の事件として起こった。当時を振り返り先生は、

「研究そっちのけだったけれど、明日は学校で何が起こるかと、毎日が刺激的だった」と語っていた。

また先生は最終講義でとっておきのものを見せてくれるそうだ。古い大学の校歌やたにし踊り、先生の初任給の明細書や、二段階の試験が設けられていた頃の薬剤師国家試験の時の受験票などだ。

最後に学生に向けての一言を伺った。

「近年、国家試験の合格率が下がった理由は、薬学一年次の午後の実習が組まれていなかったことが考えられる。薬学部、生命科学部、どちらの学生も自分をおとしめるような行為はしないでほしい。けじめをしっかりつけ、遊ぶ時はよく遊び、学ぶ時はきちんと学んでもらいたい」

部屋の壁には先生の似顔絵や、先生を囲んで大勢の人たちと写っている写真が貼ってある。多くの人から慕われている先生のこれからのご活躍を期待したい。

最終講義
日時　三月九日（金）
　　午後一時～二時頃
場所　一一一講義室

ペーティカルリミット

人は他人のために自分をどこまで犠牲にすることができるのだろうか。

舞台は実際に多くの遭難者を出し、登山者を威圧するヒマラヤ山脈・K2。その秘境の撮影に来たピーターは、父の事故死以来疎遠だった、K2登山隊の一員である妹のアニーと偶然再会する。

登山の準備は万全。しかし当日、山頂の天候は最悪となる。再三のピーターの忠告を無視した登山隊は雪崩に襲われクレバスに落下。ピーターは決死の覚悟で妹の救助に向かう。救助用とはいえ爆発する危険のあるニトログリセリンを背負って。

自分の命を最優先する者やどこまでも他人の命を尊重する者など、命の危機に瀕したときの人間模様が存分に描かれている。同じ状況下だったら自分はどの人物に同調するのか、そんな考えを巡らせながら鑑賞するのも一つの楽しみ方だろう。

また凝った演出にも恐れ入るばかりだ。例えば高所から人間が落下するシーンでは高度の差を無意識に体感できるよう施されている。さらに救助隊には次々と自然の猛威が襲いかかるのだが、観客も出演者のようにその恐怖をリアルに味わえるような映像面での工夫も見事なものだ。上映中全く息をつく暇がない。このジェットコースターに乗ったような気分を是非劇場で味わってほしい。

なお、現在全国劇場で上映中である。（不二子）

行事予定

一月
九日（火）　授業再開
二十二日（月）　後期授業終了
二十三日（火）　予備日
二十四日（水）　後期試験開始
二月
一日（木）　後期試験終了
二日（金）　後期試験予備日
中旬　後期試験結果発表
二十一日（水）～三月一日（木）　追・再試験
三月
十七日（土）　学位記授与式
二十二日（木）　進級発表